

すてきな毎日を、いつまでも

# もっといしかわ



県公式note  
毎週更新中!



note

子どもたちが  
遊べる場所を  
つくる!

復興の  
現在地と

いしかわの  
未来。





## 石川県2025年の歩み

1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨犠牲者追悼式</li> <li>○デジタルアーカイブ「震災の記憶・復興の記録」公開</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本州初のトキ放鳥決定</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和7年度当初予算成立（能登の復旧・復興と石川県全体の成長の二本柱）</li> <li>○金沢城二の丸御殿復元工事着工</li> <li>○のとじま水族館全面営業再開</li> <li>○応急仮設住宅の整備完了</li> </ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○のと鉄道「震災語り部観光列車」定期運行開始</li> <li>○公立夜間中学「県立あすなろ中学校」開校</li> <li>○いしかわ特別支援学校新校舎完成</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地震被害想定調査結果公表</li> <li>○愛子内親王殿下 復興状況ご視察</li> <li>○大の里閼 第75代横綱昇進</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ツインブリッジのと暫定供用開始</li> <li>○令和7年度6月補正予算成立（恒久的な住まいの確保に向けた支援、米国関税措置を踏まえた事業者支援など）</li> <li>○いしかわ被災者支援センター開設</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中屋トンネル一般車両通行再開</li> <li>○文化財レスキュー展開催</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和6年能登半島地震初動対応の検証結果取りまとめ</li> <li>○輪島塗「漆芸の聖地プロジェクト」基本構想取りまとめ</li> <li>○復興応援特設サイト「能登の一步、未来への一步」開設</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和6年奥能登豪雨から1年 犠牲者追悼</li> <li>○令和7年度9月補正予算成立（8月の大雨への緊急対応、復旧・復興の加速、最低賃金引き上げを踏まえた事業者支援など）</li> <li>○土地境界再確定加速化プラン策定</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○能登半島絶景海道ロゴマーク決定</li> <li>○被災した建物の公費解体おむね完了</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関係人口ポータルサイト「いしかわのWa!」開設</li> <li>○プレミアム・パスポート 全子育て世帯へ対象拡大</li> <li>○復興支援特別展「ひと、能登、アート。」開催</li> <li>○復興祈念シンポジウム「ノトノコエ」開催</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高市首相被災地訪問</li> <li>○令和7年度12月補正予算成立（物価高対策、被災地の雇用維持や観光誘客の促進など）</li> <li>○加賀料理 国の無形文化財に登録</li> </ul>

## 県民の皆さまへ

令和6年能登半島地震から2年、そして令和6年奥能登豪雨から1年3カ月が経ちました。改めて犠牲となられた方々に深い哀悼の意を捧げるとともに、被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。県では、インフラの復旧や、被災者の方々の生活再建に取り組むとともに、能登の魅力や強みを生かしながら、より良い未来を築いていく「創造的復興」に向けた取り組みを加速させてまいりました。県政の舵取り役として、自らに課せられている使命の大きさと責任の重さを肝に銘じ、引き続き、被災者の皆さまに寄り添いながら、国や被災市町、民間の方々と緊密に連携し、創造的復興に向け全力を注いでまいります。

石川県知事 馳 浩



# 能登のこれまでと “今”を知って、 いしかわの未来を 一緒に考えよう。

令和6年能登半島地震から2年、  
令和6年奥能登豪雨から1年3カ月が経ちました。  
被災地では、今も多くの人が「できること」から  
一歩ずつ、前へと踏み出しています。  
日常を取り戻すための小さな行動が、  
やがて大きな力となり、地域を支えていく。  
復興の歩みをともに見つめ、  
能登の“今”に耳を傾けながら、その先にある  
いしかわの“未来”を考えてみませんか？



# 被災地で輝く復興PLAYERたち。

能登を復興に導くために立ち上がった挑戦者たち。その行動の原動力とは？

**全国からの支援が  
新たな挑戦につながる**

2025年11月、輪島市にアーバンスポーツ施設『NOTO COMPLEX PLAYGROUND』がオープンしました。3×3バスケットボール、スケートボード、ダンスが楽しめる屋内型の複合施設で、高校生までの利用は無料。能登官民連携復興センターが実施する、ロックユニット「COMPLEX」などからの寄付金を活用した「能登復興支援事業」で採択された取り組みです。

**少人数でも遊べる  
子どもたちの居場所に**

運営するのは、輪島市内で整骨院を経営する谷遼典さん。中学からバスケットボールに打ち込み、京都での学生生活を経て地元に戻った。2024年には能登をホームタウンとする3×3バスケットボールの女子プロチーム「ECHAKEN A NOTO」も設立しています。そんな谷さんがアーバンスポーツ

## STORY.1 アーバンスポーツで復興を支える、輪島の新たな挑戦。



能登キッズが  
のびのびと  
遊べる場所  
にしたい！



### PLAYER

#### 表紙の人

Title. 一般社団法人 NOTO COMPLEX PLAYGROUND 代表

Name. 谷 遼典 さん

輪島市出身。『てて鍼灸整骨院』の院長として地域の健康づくりに携わる一方で、3×3バスケットボールをはじめとするアーバンスポーツを通じたコミュニティづくりにも力を注いでいる。

ツ施設の整備を思い描き始めたのは「自分たちのホームコートが欲しい」という思いからでした。しかし、震災後に子育て世代から「子どもが走り回れる場所がない」という声を聞く中で、その思いは「地域に必要な場所をつくる」思いへと変わっていきます。

いに呼応するように、『NOTO COMPLEX PLAYGROUND』は、輪島の未来につながる新たな「日常の風景」をつくり始めています。

複合施設にした理由は、子どもの数が少ない輪島では「一人でも少人数でも遊べる場所が必要」だと考えたから。実際にオープン後は、ダンスフロアで追いかけてスタートしたり、スケートボードエリアで上手な子が初めての子どもに教えてあげたりと、年齢や学校の違う子ども同士が自然とつながり、遊びをきっかけとした新たなにぎわいが生まれています。

**放課後に歩いて通える  
距離にしたかった**

オープンに向けては安全面にも気を配り、入退場時に二次元コードをかざすと保護者に通知が届く仕組みを導入。初めての子どもでも安心して利用できるよう、スケートボードエリアには滑りやすい専用塗装の床と保護ネット、バスケットボールエリアにはプロ仕様の本格的なコートとゴールを備えるほか、貸し出し用のスケートボードやプロテクターも完備するなど、道具なくとも遊べる環境を整えています。子どもたちの笑い声、弾むボールの音、スケートボードが走る音。「子どもの頃に心から遊んだ場所があれば、大人になったときに『またここへ戻りたい』」と思えるはず」という谷さんの願

NOTO COMPLEX PLAYGROUND



住所 輪島市宅田町41  
ワイブラザ輪島店 敷地内  
TEL 050-1792-1567  
営業時間 平日:14:00~19:00  
土・日・祝:10:00~17:00  
定休日 火曜

### NOTO COMPLEX PLAYGROUNDの 整備・運営もサポート！



谷さんの復興にかける熱い思いを形にし、被災地の皆さんにとって、新たな能登の未来を思い描き、復興を実感していただけるような施設となるよう、のとれんぷくが資金面・ノウハウ面でサポートしました！  
能登官民連携復興センター  
事業推進部門マネージャー 中橋さん

#### 資金支援

ロックユニット「COMPLEX」などからの寄付金を活用し、能登の未来につながる新たなチャレンジや地域の取り組みを支援！

#### 人材支援

スポットワークや求人サイトを活用し、被災事業者や地域団体の人材確保を支援！

#### ノウハウ支援

専門知識や経験を生かした社会貢献活動「プロボノ」を、能登の課題解決に取り組む団体とマッチング！

### COLUMN

## “のとれんぷく” って知ってる？



2024年10月に開設された「能登官民連携復興センター（通称：のとれんぷく）」は、全国から寄せられるさまざまな支援の受け皿となり、能登で復興に取り組む地域団体や事業者につなぐ中間支援組織です。「資金」「人材」「ノウハウ」の三つの支援を軸に、復興を後押ししています。







復興のアイデアや和倉への想いが書かれたふせん。住民の率直な声が、未来を考える手がかりとなっています。

COLUMN

和倉温泉でがんばる人  
たちの動画も公開中!

能登の“今”を  
もっと知りたい方へ

特設サイト「能登の一步、未来への一步」では、能登半島地震・奥能登豪雨の風化防止に向けて、復興への歩みを進める人たちの声を集めた動画を随時公開しています。

和倉温泉編 公開中!



動画を見る



動画のほかに、復興に取り組む人々のインタビュー記事、ボランティアやふるさと納税など復興を応援する取り組みへのリンクを掲載中!

## 人と被災地をつなぐ 新たな交流拠点の誕生

協議会は、住民から集まった声をもとに八つの主要エリアを設定し、行政や民間企業との連携を本格化。和倉らしさを体験できる場として、今後は各エリアの整備やEVバス(電気自動車)導入など、具体的なプロジェクトが動き出す見通しです。また、去年7月にオープンした復興まちづくり拠点「わくらす」では、協議会の取り組みや現状を分かりやすく発信。震災後

## 未来の担い手を 地域で育てるために

多田さんが復興の中で特に重視しているのが、子どもたちの未来です。和倉温泉には、子どもが自由に過ごせる場や、大人と関わる機会が決して多くはない現状。地域との接点が少ないまま育つことに危機感を抱き、旅館や商店での体験学習、地域の大人と一緒に活動する部活動づくりなど、世代を超えた交流の仕組みづくりにも力を入れています。「和倉を知って育つこと

けてきた結果、世代や立場を超えて意見が集まり、和倉のこれからを「自分ごと」として考える住民が増えてきたといえます。

「心配で訪れた」という来訪者も多く、わくらすでの会話が能登の現状を知るきっかけになるなど、観光客と被災地をつなぐ役割も果たしています。

## わくらす



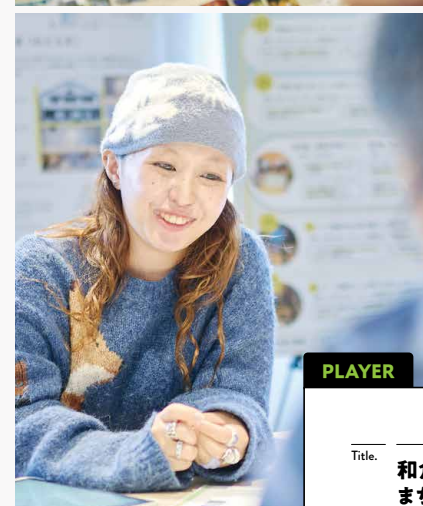
住所 七尾市和倉町720-2

地域の住民や来訪者が集まり、和倉の今と未来について話し合える交流スペース。情報発信や意見交換、イベントなどを通じて、まちづくりを支える役割を担っています。



で、未来の担い手が生まれるはず」と語る多田さん。10年先、20年先を見据え、次世代へバトンを渡す環境を整えることが、持続可能なまちづくりの基礎になるはずだ。

## STORY.2 地元住民が一丸となって、温泉街の未来をつくる!



PLAYER

Title. 和倉温泉創造的復興  
まちづくり推進協議会  
代表

Name. 多田健太郎 さん

七尾市出身。アメリカ留学や東京・大阪での勤務を経て、老舗旅館「多田屋」へ入社。震災後は6代目として再建に向き合いながら、和倉温泉の復興まちづくりを後押ししている。

## 若い世代の発想力で わくわくする温泉街に

今もなお多くの旅館が休業を余儀なくされている和倉温泉では、地元住民が中心となったまちづくりが進めら



れています。『和倉温泉創造的復興まちづくり推進協議会』は、その中心的存在。まったく新しい街にするのではなく、本来ある価値を大切にしながら、新たな魅力をつくり上げていく。そんな考えのもと、地域の声を集めながら、復興に取り組んできました。その象徴的な取り組みが、住民の意見を幅広く集める「和倉トーク」です。「持続可能なまちづくりには、未来の当事者である若い世代の意見が欠かせません」と話すのは代表の多田健太郎さん。小学校や中学校、商店街などに自ら足を運び、こちらから声を聞きに行くスタイルで対話を続

みんなの声で、  
和倉温泉の未来が  
動き出す!



## いしかわサテライトキャンパス推進事業

# 「のと復興

# 留学」に密着！

ボランティアや地域との交流を目的とする  
大学生限定の短期地方留学プログラムに  
参加した学生さんの声をお届けします。

### STORY.4 復興留学をきっかけに、能登での暮らしをはじめる。

## 移住生活で見た能登の今とこれから



留学中に飛川さんが関わったのは、ゲストハウスの手伝い、地元住民との交流、そして地元の祭りへの参加でした。「とくにお祭りでは、地元の人たちの熱気や一体感に驚かされました」と飛川さん。短い期間でも黒島の暮らしの一端に触れたことは大きな経験になったといいます。一方で、被災後の生活の難しさや人手不足といった課題にも触れ、「この土地で起きていることを本当の意味で理解するには、もっと自分の目で確かめる時間が必要」と考えるようになり、その後の移住という選択につながりました。

### 大勢の学生が黒島に集結！

移住中は、ゲストハウスに住み込みで働きながら、日課の散歩で地元住民と言葉を交わす日々。

地域の日常と寄り添う中で、「人や自然、歴史や文化、いろんなつながりで生活が成り立っているところに、能登の豊かさを感じた」と振り返ります。また、飛川さんが中心となって地元の祭り「黒島天領祭」の担い手を集めた取り組みでは、100人近くの学生が参加し、地域の誇りでもある伝統行事を盛り上げました。

### 行く場所から、帰る場所に

「黒島の文化や暮らしが受け継がれていくよう、自分にできる形で関わり続けていきたい」と飛川さん。東京で生活する今も月に1度のペースで黒島に通う飛川さんのように、地域外から関わり続ける人の存在は、能登の復興を後押しし、関係人口として新たな力を生み出してくれるはずです。



#### PLAYER



飛川 優さん

東京都出身。2003年生まれ。大学で防災に関する研究を行う中、「のと復興留学」を通じて輪島市黒島に滞在。その後、自らの意思で再び黒島に戻り、約1年間の移住生活を送った。

インタビューをさらに詳しく見る！



note

### “関わり”を通して、支え合いの「輪」を広げる

## 関係人口ポータルサイト「いしかわのWa!」がスタート！

“人”と石川県の“地域”をつなぐ関係人口ポータルサイト「いしかわのWa!」が、2025年11月からサービスを開始しました。県内の市町や団体などが、復興支援、地域活動、ボランティアといった「ちょっと手を貸してほしい」ことをプログラムとして発信。サポーター登録をすれば、県内外問わず、全国どこからでも自由な形で参加が可能です。能登のために、石川のために。全国の皆さんが“関わり”を通じて寄り添い、支え合う「輪」を広げます。

■珠洲市(真浦町)、金沢市(本町)

●パーのDIYを実施

■穴水町(甲地区)

●地域の子どもたちを対象としたイベントの運営をお手伝い

■白山市(木滑地域)

●地域住民などとの交流パーティーのお手伝いと交流



### STORY.3 能登町の里山に1週間留学して感じた被災地のリアル。

#### PLAYER



打田 真亜弥さん

愛知県出身。2003年生まれ。大学でデザインや映像を学ぶ中で、震災復興からのまちづくりに関心を持ち、2025年11月に「のと復興留学」に参加した。



能登町にある農家民宿「春蘭の里」で、1週間の里山生活を体験した打田真亜弥さん。民宿の手伝いや直売所の店番をする中で、なにより心に残ったのが地元住民との会話でした。「同世代からお年寄りまで、能登の人たち

の温かさを感じる一方で、震災の心の傷が癒えない方がいることも知りました」と打田さん。能登での暮らしの中で得た気づきは、これからの学びや進路を考える大きなヒントになったのではないのでしょうか。

### 会話から見た心へのケアの大切さ

### いしかわサテライトキャンパス とは？

創造的復興プランのリーディングプロジェクトの一つ。石川県の豊かな自然や文化などを生かし、フィールドワークや地域活動などを通じて、学びの機会を提供しています。

今年度は700人の受け入れ目標に対し、県内外の78の大学などから約810人の学生が参加予定です。(令和7年11月末時点)



詳しく見る



石川県を代表する伝統的食文化

# “加賀料理”が国の無形文化財に登録されました

江戸時代の加賀藩で育まれた武家料理を基礎に、四季の食材や多彩な器、そして洗練された職人技とおもてなしが融合した加賀料理。その魅力を伝統を受け継ぐ2人が語ります。

接遇



料亭『つば甚』  
17代目女将  
鰐裕加里 さん

金沢市生まれ。16代当主・鰐一郎氏の長女として2015年につば甚に入社。2024年には女将を継承し、加賀料理の伝統を受け継ぎながら、時代に寄り添うおもてなしを追求している。

石川県の取り組み

加賀料理の魅力をさらに広めるために

加賀料理と芸妓の舞などの文化体験を組み合わせた「加賀料理をめぐる会」の開催や、加賀料理を活用した旅行商品の造成支援により、県内外の方々へ加賀料理の魅力を体感できる機会を提供していきます。

料理と空間が一体になった、“食”の総合芸術。

加賀料理の魅力を支えるもうひとつの柱が、おもてなしの心と美しい所作です。「静かに歩くこと、器を置くときに音を立てないこと。私がこの世界に入って最初に教わったのがそのふたつでした」と話すのは、金沢最古の料亭『つば甚』で女将を務める鰐裕加里さん。日々の接客の中で培われてきた静かだしなやかな所作は、お客さんの会話を邪魔しないためであると同時に、代々受け継がれてきた大切な器や建具を守るためでもあります。

四季折々でしつらえも変化  
調度品や掛け軸、生け花など、季節ごとに装いを変えるしつらえ、さらには窓の外に広がる景色まで、料理以外のあらゆる要素でお客さんをもてなすのも加賀料理ならではの魅力。「料理と空間が一体となった、まさに総合芸術なんです」と鰐さんも話すように、そこには武家文化と町人文化が交わり、工芸や芸事が暮らしに溶け込んだ、金沢らしい美意識が感じられます。

時代に寄り添い伝統をつなぐ  
その一方で、鰐さんは「受け継いだ文化を、今の時代に合うかたちへ」と整える必要があると話します。かつての料亭は敷居の高いイメージでしたが、今では結婚式をはじめ若い人たちの利用も増加。料理の出し方にSNS映えの要素を加えるといった新しい取り組みも始まっています。加賀料理を次世代につなぐために、伝統の技と空間づくりは、これからも進化を続けていきます。

加賀料理の魅力は、素材そのものが持つ力をどう生かすかにあります。「鮮度の良いものをできるだけ自然なまま味わっていただきたい」と話すのは、老舗料亭『大友楼』の大友佐俊さん。海も山も近い石川県では、四季折々の野菜や魚が手に入る。料理人はその恵みを損なわないよう、必要以上に味を重ねず、最適な火加減と香りの引き出し方で仕上げていく。加賀料理が長く愛されてきた背景には、こうした“引き算”の美学が息づいています。

器の余白が導く美しい盛り付け  
もうひとつ、大友さんがこだわるのが器との向き合い方です。「器は料理の着物。盛り付けひとつで料理の印象もガラリと変わります」。九谷焼、輪島塗、山中漆器など、その日の器に合わせて配置や彩りを調整するのが職人の腕。器の存在感が強ければ料理は控えめに、表情が静かな器には彩りを添える。こうした“余白を見る感性”も、加賀料理の美意識を支えています。

料理を作る喜びが技を磨く力になる  
素材と向き合い、包丁を握り、器と対話しながら一皿を仕上げる料理には、時間も手間もかかります。それでも「おいしく食べてもらいたいという気持ち」が技術を支えてくれる」と大友さん。無形文化財は、人々が受け継いできた「技」そのものであり、地域の暮らしを今に伝える大切な文化資産。今後は若手料理人が技を学び合う場づくりに取り組んでいくそうです。

料亭『大友楼』  
7代目当主  
大友佐俊 さん

金沢市生まれ。京都「菊水」、岡山「三好野弁当店」を経て、1974年から大友楼へ。現在は加賀料理技術保存会の会長として、伝統と格식을次世代につなぐ役割を担っている。

石川県の取り組み

次代を担う若手料理人の確保・育成に向けて

県と加賀料理技術保存会が一体となって、料理人への研修や、調理専門学校への特別講座など、若手料理人の確保・育成に取り組む、加賀料理を次代に継承していきます。





## 九谷焼の魅力をポップに発信中!

### 📍 九九谷 × セラボクタニ

「産地小松より掛け算する九谷焼」をテーマに、九谷焼の新しい魅力を発信する『九九谷』。ストリートカルチャーやアーティストとのコラボレーションなど、ポップな感性で伝統に新たな風を吹き込んでいます。「九谷焼に興味を持つきっかけになれば」と語るのは、代表の吉田良晴さん。九谷焼の美と技が体験できる施設『セラボクタニ』でも、個性豊かなアイテムが購入できます。



## 手作りジャムが人気の古本カフェ

### 📍 こまつ町家文庫

まちなかの古本カフェが手がける「世界文学ジャム全集」が小松みやげに大人気。「素材のおいしさをそのまま瓶に閉じ込めたい」とオーナーの金田奈津代さんが手作りするジャムは、無添加・無着色の素朴な味わい。お店には旬の果実を使った限定品など、常時20種類が並びます。

📍 小松市八日市町46  
☎0761-27-1205



📍 小松市若杉町ア91  
☎0761-48-4235



我ながらいい仕上がり



# こんにちは

### 連動企画

小松市のおすすめスポット紹介!



note

### MAP

紹介した場所を地図で確認する



カフェの看板メニューは、超粗びきの自家製パティが自慢のバーガー。肉のうまみがかむほどこに広がります。

## 美食の宿でカフェタイムを

### 📍 オーベルジュ オーフ

自然豊かな里山の廃校をリノベーションした宿泊付きレストラン。カフェを併設し、気軽に立ち寄れるのも魅力です。シェフの糸井章太さんは国内最大級の料理人コンペティションで最年少グランプリを受賞した実力派。土地の恵みを新たな感性で表現し、訪れる人を魅了しています。



## 最近の 小松市 注目情報はこちら!



### SPOT コマツナイン

小松駅高架下にある観光交流センター。小松と“もっと深く、おもしろく”関わるための出会いが生まれる、ひと・もの・情報が巡り合う場となっています。

📍 小松市土居原町13-18  
☎0761-58-2775



### SPOT カブッキーランド

全天候型の屋内遊び場。大型遊具、知育玩具、赤ちゃん向けゾーンがあり、年齢や好みに合わせて楽しめます。毎月メニューが変わる親子クッキングも大好評(要予約)。

📍 小松市土居原町10-10  
こまつアズスクエア 1階  
☎0761-58-1212



勸進帳は安宅が舞台!



歌舞伎のイロハ



九谷焼などの伝統工芸や機械産業をはじめ、古くから「ものづくりのまち」として発展してきた小松市。自然や文化、地域のつながりを大切にしながら、今もまちのあちこちで新しい挑戦が生まれています。

くりのまち」として発展してきた小松市。ちこちで新しい挑戦が生まれています。

## 義経や弁慶に なりきってみよう!

### 📍 勸進帳ものがたり館

歌舞伎の世界をより身近に、気軽に楽しめるスポット。迫力満点の大画面で歌舞伎の演目「勸進帳」のダイジェスト映像を楽しめるほか、AR(拡張現実)を使った衣装や隈取りの体験コーナーなどワクワクする展示が盛りだくさん。日本海を一望できるカフェも人気です。

📍 小松市安宅町140-4  
☎0761-21-6734



## 鉄職人がつくる こだわりのフライパン

### 📍 アイアンワークス コル

看板や表札、アート作品まで幅広く手がける鉄職人の酢馬慶太さん。なかでも独学で磨いた技術から生まれるフライパンは、極薄の鉄板ならではの軽さと火の通りの早さが特長的。家庭料理はもちろんアウトドアでも使いやすく、全国のキャンパーから注目を集めています。





## 子どもの権利って知ってる?

子どもの権利とは、子どもが健やかに幸福な生活を送るために必要なもの。

1989年に「児童の権利に関する条約」が国連で採択され、  
現在、日本を含む196の国・地域が締約しています。

### 差別のないこと



### 子どもにとって最もよいこと



### 命を守られ成長できること



### 意見を表明し参加できること



※「児童の権利に関する条約」などを参考

### 石川県で「子どもの権利基本条例」が制定されました!

子どもの権利が保障され、子どもが健やかに幸福な生活を送ることができる社会の実現のため、「いしかわ子どもの権利基本条例」を制定しました。今後、社会全体で子どもの権利の理解を深めるための啓発や、子どもの意見表明・社会参画を促すためのより良い環境づくりを進めていきます。



子どもたちの意見も取り入れられています!

大活躍すること間違いなしです! 野菜は冷蔵庫にあるもので自由にアレンジを。イカのさばき方は動画でも紹介しているので、ぜひご覧ください。

石川県内で1年を通して多くの種類が漁獲されるイカ。中でも、日本三大イカ漁港のひとつ能登町小木をはじめ、スルメイカ釣り漁業が盛んに行われています。今回ご紹介するのは、そんなイカを使った簡単サラダ。旬の野菜それぞれの持ち味とイカのうまみ、さらにレモンの爽やかな酸味がマッチした味わいで、おもてなし料理にも常備菜にも

#### 材料(4人分)

- イカ(ぶつ切り) … 180グラム
- 塩麹 … 18グラム  
(イカの重さの10パーセント)
- ダイコン … 100グラム
- セロリ … 60グラム
- 水菜 … 50グラム
- パプリカ … 30グラム
- レモン … 1/4個
- 塩麹 … 大さじ1/2
- りんご酢 … 大さじ1/2
- エキストラバージンオリーブオイル … 大さじ1/2

#### 作り方

- ①イカに塩麹をなじませて冷蔵庫で半日〜一晩寝かせる。
- ②フライパンにイカを入れ、ふたをして中〜弱火で3〜4分蒸し焼きに。イカに火が通ったらバットに取り出して冷ます。
- ③ボウルに(A)を入れて混ぜ合わせ、なじませておく。(ダイコン、セロリ、パプリカは千切り、水菜はザク切り、レモンはいちよう切りに)
- ④冷めたイカを③に加えてよく混ぜ合わせる。すぐに食べてもおいしいが、冷蔵庫で半日ほど寝かせると味がなじんでよりおいしくなる。

## デパ地下風イカの塩麹マリネサラダ

元祖麹料理  
研究家  
小紺有花 先生

石川県在住。発酵食文化の素晴らしさを伝えるため、料理教室やワークショップなどさまざまな活動を精力的に行っている。



紹介記事



▶ 動画



詳しい作り方を  
見る

### 解説

昨年の新米収穫量が増えて、需給が緩和。こちとらおコメ大好き64歳。お天道様のご機嫌ははかりかねるが、おいしいご飯はたらふく食べたい。生産者の手取りも増やしてあげたいし、お正月は石川のいいおコメをおなかいっぱい食べたい。やっぱり主食のおコメは「うまい!!」に限る。

はせ浩の一句。  
石川県知事が日々の一コマを詠む。



初春や  
米価見通し  
おかわり君



今年も  
がんばります!

林有沙さん  
(前列右から2番目)

2010年生まれ。金沢市出身。6歳からスポーツクライミングを始め、2024年にはクライミング世界ユース選手権で初優勝。将来のオリンピック出場が期待されている。

来年からシニアの大会に出るので、そこで結果を出して世界大会に出場すること。将来はいくつになっても楽しく登り続けられるクライマーになりたいです!

● 将来の目標は?

て、次のやる気につながるんです。

● どこが一番おもしろい?

難しい課題に何回もチャレンジして、やっと登れたときが一番楽しいです。クライミングは力だけじゃなくて頭も使う競技。試行錯誤しながらクリアしていくのもおもしろいし、登るたびに新しい発見があった、次のやる気につながるんです。

● クライミングを始めた理由

目指せクロス五輪!  
中学生クライマーに聞く  
スポーツ  
クライミングの魅力



広告

広告



アンケートに答えて、すてきなプレゼントを手に入れよう

## PRESENTS!!



応募締切

2月28日

【土曜日】

### 小松市特産品詰め合わせ 10名様

石川県の特産品を抽選でプレゼント。今回は「小松市からこんにちは」で紹介した小松市から、小松トマトを使った、おいしい詰め合わせをお届けします。応募方法は下記の二次元コードを読み取ってアンケートに答えるだけ。広報誌「もっといしかわ」の誌面づくりに、あなたの声を生かします！

商品協力：道の駅 こまつ木場潟(TEL.0761-25-1188)

画像はイメージです。実際とは異なる場合があります。※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。※住所は番地、建物名、部屋番号まで正確にご記入ください。記入漏れなどがある場合、プレゼントをお届けできない場合がございますのであらかじめご了承ください。

Webフォームから応募する(5分程度)

石川県電子申請システムにアクセスし、必要事項を記入ください。



2026年2月1日からスタート

病院へ行く? 救急車を呼ぶ? ...迷ったら  
いしかわ救急安心センター事業

# #7119

24時間365日(年中無休)  
看護師などが電話対応



病気やけがの症状を把握し、応急手当の方法や受診手段、適切な医療機関などについてアドバイス  
※緊急度が高いと判断された場合は、最寄りの119番へ転送します

※緊急時は迷わず119番

お問い合わせ 消防保安課  
TEL.076-225-1481

詳しくはこちらから



## 県のしごとって どうなん?

現役職員の  
本音を  
直撃!

ワクワク  
する授業を!



所属 > 県立高等学校 教員

### Q 教員を目指した理由

高校時代に部活動の顧問に「周りをよく見て、みんなの良いところを見つけなさい」と教わったのがきっかけです。その言葉を通して、人の良さに目を向けることの大切さを学び、自分もそんな教員を伝えられる人間になりたいと思いました。

### Q 仕事内容を教えてください

理科の授業を担当しながら、企画推進室の室長としてSNSを使った広報活動や「総合的な探究の時間」の運営、DXハイスクールとしての機材管理などを行っています。その他では教員同士が協力して新しい授業をつくる「教科横断型授業」

の推進にも取り組んでいます。

### Q やりがいを感じる瞬間は?

生徒が授業や部活動で挑戦している姿を見るとときです。卒業した生徒が「先生の言葉の意味がわかりました」と話してくれたときは、自分の想いが届いていたんだと感じて、とてもうれしかったです。

### Q 教員を目指す人へ

子どもたちが成長する姿に喜びを感じる人、そして自分自身も挑戦し続けられる人に向いている仕事だと思います。授業以外にも教員がアイデアを生かせる機会はたくさんあります。ぜひ一緒に新しい教育に挑戦していきましょう!

### とある仕事の風景



専門は物理学。毎週多くの授業を担当しながら、放課後はバレーボール部の顧問として、生徒と一緒に汗を流す時間もあります。

### 先生になるという夢、かなえませんか?

県教育委員会では、正規教員の採用と併せて、講師として教壇に立つてくださる方を募集しています。教員免許をお持ちの方、私たちと一緒に子どもたちの未来をつくりましょう。



講師等  
募集案内

